

色姫の墓碑

平成2年4月27日市指定文化財

古賀市青柳石瓦 2202 番地にあります。五所八幡宮の少し南方の願成寺跡のさらに南側の反対斜面の一角で南に立花山を望むところです。

戸次道雪の側室色姫は天正12年(1584)3月24日に自殺したとされています。石碑の表面には下の略図のように陰刻されています。

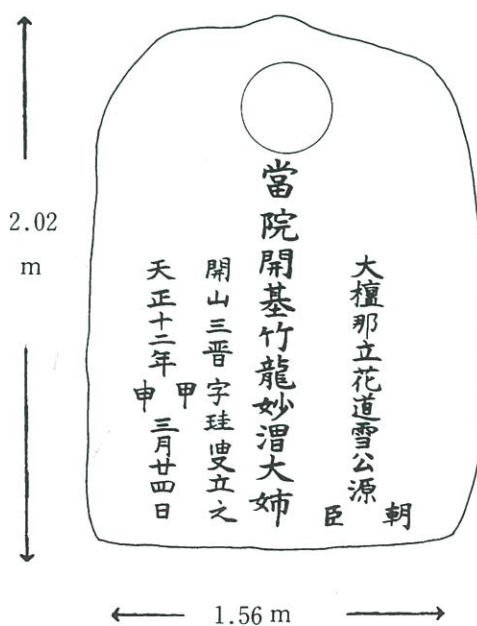


「竹龍院」は色姫開基の寺院でしたので、その「竹龍」が色姫の追号となりました。

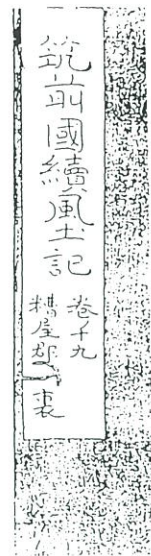
このあたりが竹龍院の跡であるわけです。

なお、三晋字珪は五所八幡宮の別当寺であった願成寺の住職で、竹龍院の住職も兼帯していたと思われます。

永禄12年(1569)11月、毛利と大友の戦で毛利方につき、敗れた宗像大宮司氏貞は和睦の際に妹の色姫を大友の家臣道雪に人質としておりましたが、色姫は後に道雪の側室として迎えられました。時に色姫は25歳、道雪は57歳であったということです。



竹龍院址のことは「筑前国続風土記」（貝原益軒編纂 宝永6年（1609）自序）に出ています。その間のいきさつについては「太宰管内志」も少しふれています。



竹龍院址

青柳村の石河原と云所にあり禪
 寺なりしとかや此寺は立花道雪の
 内室建立の所にて其追号竹龍院と
 いひし故寺の名とせり寺院今は圃と
 成ぬれとも其所に道雪の内室の墓
 所あり石塔には当院開基竹龍院
 殿妙涓天正十二年三月廿四日と刻あり

青柳村の石河原と云所にあり禪
 寺なりしとかや此寺は立花道雪の
 内室建立の所にて其追号竹龍院と
 いひし故寺の名とせり寺院今は圃と
 成ぬれとも其所に道雪の内室の墓
 所あり石塔には当院開基竹龍院
 殿妙涓天正十二年三月廿四日と刻あり

色姫が自ら命を絶った3月24日は奇しくも山田地蔵尊の祥月命日でした。天文12年(1552)の3月24日、色姫の腹ちがいの姉菊姫とその母や侍女などすべて6人が、色姫の実兄氏貞方の家臣、石松但馬守・嶺玄藩・野中勘解由などから討たれるという惨劇がありました。ところがその後、その祟りでいろいろの異変が起こったので、これを鎮めるために6人を六地藏として宗像郡山田村に祀ったのが、いわゆる山田の地藏様です。

この宗像家のお家騒動の犠牲になった6人の祟りは宗像郡内にとどまらず郡外にも拡がって、いろいろ話が残っています。古賀町筵内の医王寺にある「山田地蔵経石塚」はその一つです。第13世碧潭和尚の時（元禄の頃）に、一字一石経の供養をして霊を鎮めたと言い伝わります。

当時、筵内方面では怪火（火の玉）が毎晩のように出没しましたが、それが山田の地藏様のせいと思われたのでした。

色姫の自殺は小金原の戦などで宗像との関係が悪化し、それを苦にしてと考えられますが、真相についてはわかりません。

